

## 会員のひろば

### ■ 育てていただいた思い出の現場

北ノ堂 松原 稔



私のシルバーデビューは平成15年9月、NTTさんの植込みの雑草取りをした5日間でした。作業はリーダーの大場さんを含む5名体制で、リーダーの親切な指導や吉川さん、西島さん（故人）の指示は今でも忘れることなく「初心忘れず・・・」でがんばっています。

次の現場は平成16年3月から京セラさんの芝生の除草でした。3年くらい経ってから加藤造園さんに作業が委託され、月5日間のみの限定作業になったものの、平成21年8月までの長きにわたってお世話になりました。5名体制での作業でしたが、当初はみんな芝の除草は初体験で、担当の中川さんから小さな雑草も1本1本鎌を使って芝を傷めないように根元から抜

いてほしいとのことで鎌も借用しての作業でした。

京セラさんの現場では忘れることのできない思い出があります。

平成20年ころのある夏の暑い日のこと、昼食中に冷たい飲み物の差し入れを持って来られた方が暑い場所での食事を気遣ってくださり、その後は昼食をとるのに冷房の効いた部屋を用意していただいたことです。

その方は鹿児島工場の責任者を経て精華町の中央研究所へ着任された多田さんという方とのことでした。そのような心配りをする社風に感動するとともに、どんな状況下においてもベストを尽くしてがんばろうと改めて誓いあったことでした。

ほかにも平成17年5月の祝園駅前の料亭酔月さんでは、スギゴケの中に生えている小さなゼニゴケを除去するのが大変な作業で、工夫したピンセットで半分泣きながら2日間かけて必死で取り切ったこともありました。

数々の現場体験で育てていただいたことが私の財産であり今に生かされていると思います。そして今まで長きに亘って務めることができたのは健康に恵まれたこともあります。そして今まで長きに亘って務めることができたのは健康に恵まれたこともあります。そして今まで長きに亘って務めることができたのは健康に恵まれたこともあります。そして今まで長きに亘って務めることができたのは健康に恵まれたこともあります。

シルバー会員として一人の経営者の気持ちで、シルバーに頼んでよかったと言っていただけのようにがんばっていきたいと思います。

### ■ 知恵を絞って税を搾り取る

北ノ堂 嵯峨洋輔



表題のような言葉を使った刷り物があると、なんとなく興味をそそられるものです。言葉遊び、文字遊び、脳トレ的な言い回しも含めて、そのおもしろさにはまり込んでいる私です。

「絞る」という漢字はよく目にしますが、「搾る」はそれほど目につかないのではないのでしょうか。もっとも最近、酒販屋さんや広告で「〇〇搾り」をいやというほど見せつけられますが、少し前までは圧搾とか中間搾取とかの言葉しか見かけないし頭に浮かんでこなかったものです。

「絞る」は糸偏であることから布の端をねじって引っ張る動作のいわゆる雑巾を「しぼる」などを連想します。「搾る」は手偏から手を狭くして締めつける動作のレモンを「しぼる」という言葉などを連想します。世の中、ほとんどのものが「絞る」の範ちゅうです。範囲限定の絞る、音や光を少なくする絞る、シゴキに通じる絞る、努力して出す絞る…、「搾る」に比べてその使い方は様々です。

『シルバーせいか』の編集作業をお手伝いさせていただいて、そんななんでもないおもしろさや究明心に浸っています。同音異義語の使いまちがいはいしていないか、漢字表記とひらがな表記が入り混じっていないか（用字用語の統一）、現代用語としてふさわしくない表現になっていないか、数字はまちがっていないか、句読点の入れ方は適切か…等々、寄せられた原稿と照らし合わせ、それに編集面での手も加えて作業を進めています。内容についての精査はもちろんのことです。

平成27年9月発行の42号から携わっているまだまだよちよち歩きのひよっ子ですが、会員皆さま方の熱い眼差しを思いっきり感じながら邁進したく思っています。